

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970300493
法人名	医療法人 藤和会
事業所名	グループホーム なごやか
所在地	大和郡山市北郡山町310
自己評価作成日	平成29年6月8日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/29/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人カロア
所在地	大阪府泉佐野市泉ヶ丘四丁目4番33号
訪問調査日	平成29年6月28日
評価結果決定日	平成29年7月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームなごやかは、医療法人藤村病院が母体であり365日24時間、医療面でのバックアップ体制が万全であり、ご家族様、利用者様の安心感となっている。藤村病院の看護師の協力もあり、終末期から看取りまでの介護も行っている。スタッフ一同、利用者様の個別対応に力を入れ、笑顔で暮らせる環境になっている。

経営母体の病院との連携があり、24時間受診や相談が可能となっており、医療面のバックアップが充実しています。ケアの面では、業務より入居者に寄り添う事を優先しケアを実践されています。レクリエーションや体操のプログラムは、あえて作らず、入居者個々の過ごし方を大切に、入居者のその時々気分に合わせて、一緒にテレビを見たり、お茶を飲んだり、散歩に出かけたり、入居者のペースに合わせて生活を送ることが出来ます。共同生活でありながら、入居者それぞれの過ごし方を尊重し、ごくごく普通の暮らしがあり、入居者がゆったりと、穏やかな表情で過ごされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果	項目	取り組みの成果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

ユニット名 ()

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・運営理念である「なごやかな生活を」を職員一同、共有し、その人らしい生活が送れるよう支援しています。	理念について入職時に話をされています。また、職員室内に掲示し理念を共有されています。また、日頃から理念を基づきサービス提供されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・中学生の職場体験の受け入れや、近くの神社の祭りなどにも参加しています。	年2回、近隣の祭りに参加したり、職場体験の受け入れをしておられます。また、日頃から、近所の方が花を持ってきてもらうなど近隣住民との関わりがあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・電話での、見学・入所・相談等の問い合わせに対して、医療法人のネットワークを活かし、その都度助言も含め対応している。HPでも情報を発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議を年6回実施しています。その中で、市の担当者、地域の代表者の方から助言をいただき、サービスの向上に努めています。	2か月に1回開催。民生委員、自治会長、行政担当者、入居者の家族が参加されています。ホームの状況や行事を中心に話をされ、意見交換をしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・必要な手続き・申請がある度に、相談・指導を受けている。運営推進会議にも参加していただいています。	日頃から、地域包括支援センターや行政担当者から事務手続き等の相談、助言を受けておられます。また、行政からの入居相談を受けるなど、協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束虐待防止の研修に、毎年職員を参加させる等、防止の意識を徹底させている。	行政指導により玄関は施錠されていますが、入居者の方が外出を希望される時は職員と一緒に出かけるなど柔軟に対応されています。また、年に1回、外部研修に参加し、身体拘束をしないケアの意義を理解しながら取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・職員の意識を上げるとともに、知識の向上にもとりくんでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・現在、対象者は入居していない。 今後、対象者が来られた時のために、学習会を開き、研修を行っていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約書、重要事項の説明は、管理者及び法人の事務局長が行っています。利用者の不安、疑問をしっかりと理解し、時間をかけて説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・その都度、傾聴し状況の把握を行い、話し合いをしています。 ・その後、必要に応じて家族様に説明をしています。	玄関に意見箱を設置しています。また、入居者の意向を聞き出したり、家族とも面会時や電話等で日頃からケアについて相談しながら対応をし、意見、意向を確認しながら対応されています。	入居者個々に職員が自由に記載出来る気づきノートを作っておられます。入居者との関わりの中での気づきや、家族と話をした内容を記載し、ケアに活用しています。入居者への対応への配慮を感じました。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月に一度ミーティングを実施、その内容について後日、代表者と管理者が話し合い、有効な意見に対して実践しています。	月に1度、全職員が参加するミーティングがあり、管理者と職員との意見交換があります。また、日頃から職員間の関係性に気を配り、気になる事があれば状況に合わせて面談をしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職員が不公平なく仕事ができるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・奈良県主催の研修、法人内の研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・管理者、代表者が県主催の研修会等に参加しています。そこで交流をはかり情報交換を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・相談から入所に至るまで、本人様の意見を出来る限り尊重しています。本人様から聞き取りができない場合は家族様を交えて意見を聞き取ります。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・家族様とのコミュニケーションを大切にし、来初時には、時間の許す限り、お話を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入所相談の際、医師・看護師・ケアマネジャー・栄養士等の支援スタッフで話し合い、どのようなサービスが必要か決定している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・入居者様は一人ひとりが人生の先輩です。教わる事も多いと認識し、尊敬の念を持って寄り添う時間を長く持っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・面会時に、ホームでの過ごし方や、本人様の体調などを説明します。 ・イベント等には、連絡し参加していただくようお願いをしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・入所前に住んでおられたご近所様やお友達が訪ねてこられる方もおられます。本人様の希望を家族様に連絡し、出来る限りの対応をしています。	入居前の関わりのあった知人の面会や、行きつけの店への買い物に対応されるなど、家族の協力も得ながら、関係が途切れない様、配慮されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・本人の意志を尊重しつつ、なるべくフロアで過ごして頂き、職員が間に入り、利用者同士の人間関係を良好になるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・イベント開催時には、案内をお送りし、情報提供を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・ご本人様の思いや意向を把握するため、普段の会話を大切にしています。	入居前に意向の確認をし、入居後も日常の関わりの中で意向を聞き出したり、カンファレンスで家族から聞き出す。重度化となった場合、過去の生活を振り返りながら、その方の思いに合ったケアを検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入所前に、本人及び家族様より情報を収集し、入所後、その人らしい安心した生活ができるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・毎日3回、各スタッフが、各個人の記録として支援経過をパソコンに記録しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ケアマネジャーが中心となって、医師・看護師・薬剤師・介護職員・ご家族様を交えて話し合い、それぞれの意見を反映した介護計画を作成しています。	6か月に1回、多職種、家族が参加しカンファレンスを開催し、介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別の気づきのノートに記録し、PCの支援経過とともに、毎日職員間で申し送りを実施し、変化があればその都度対応するようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・母体が医療法人で、様々な機能を持った医療・介護施設があり、本人・家族の要望があれば、多機能性を生かした支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・入所時等、家族様や介護支援専門員から情報を得ながら対応しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・母体である藤村病院をかかりつけ医とし、365日・24時間連携体制で対応しています。	元々のかかりつけ医への受診等は家族の協力の下可能です。また、経営母体である病院を希望された場合は、週3回の往診、週2回の看護師の訪問があります。急変時は24時間受診が可能な体制をとっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・母体である藤村病院より担当の看護師が適時訪問しており、特変時にはすぐ対応し、適切な受診や看護を受けられるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・母体が病院であるため、医師・看護師等の指示・情報収集ができています。他の病院に関しても、医師を通じて情報収集ができ、関係づくりに努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入所時に、重度化や看取りについて家族様に説明、理解をいただいています。終末期には、再度家族様に説明をし、藤村病院のサポートを得ながら支援を行っています。	入居時に重度化した場合の対応や看取りケアについて説明をし、生活を送る中で変化がある場合、意向を確認しながら対応しています。本人、家族が看取りケアを希望される場合、終末期をホームで過ごす事も可能な体制をとっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・急変時、事故発生時に対応できるよう、普段から初期対応の指導を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回、火災予防、防災時の避難訓練を実施しています。	年2回、避難訓練を実施しています。また、消防署の設備点検も定期的に行われています。万一災害が発生した場合、近隣の協力者も確保しています。	災害発生時は、職員だけでは対応が困難となる事が予測されます。訓練時、消防署の協力を得て、助言、指導を受ける事や、地域住民の協力体制の強化に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・人生の先輩である入居者様に尊敬の念を持ち、その人の尊厳を保つような接し方を心がけています。	寄り添うことをモットーに取り組まれています。入居者の方を中心にケアや業務を実施しています。管理者は職員に対して、ミーティングやその時々で教育、指導をしています。	業務よりも入居者との関わりを大切にしています。職員が入居者個々に一緒にテレビを見たり、創作活動をしたり、入居者のペースに合わせて対応しています。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・職員は、入居者様に寄り添い、本人の意思や思いに気づくように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・起床時間などそれぞれの入居者様に合わせています。レクリエーション等も無理強いないで、本人の希望に沿うようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・職員が、入居者様と一緒に洋服を選んだり、さりげなくアドバイスをしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・フロアの目に付く所に、本日の食事のメニューを掲示しています。また、リビングフロアの対面キッチンなので、準備やあと片付けなど、出来る方には手伝っていただいています。	3食ホーム内で調理をしています。盛り付けや後片付けをされる入居者の方もおられます。また、出前を取ったり、個別に外食に出かけることもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・日々の摂取量は各個人の日誌に記録しています。メニュー・カロリー等は、管理栄養士と連携を図っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・起床時・毎食後、職員見守りの下、うがい等の口腔ケアをそれぞれ行っていただいています。自身で出来ない人には、職員がフォローしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄チェック表に記入し、それぞれの排泄パターンを理解・把握して、排泄の声掛け、トイレ誘導を行っています。	排泄チェック表を分析し、排泄パターン等を把握し、極力、オムツを使用しないケアに取り組まれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・支援経過や申し送りで最終排便をチェックし、食事提供の工夫や体の動かし方等を指導しています。便秘症の方には、医師・看護師の指示をあおぎ、対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・入浴日は決まっていますが、希望があれば、毎日入浴可能です。	週3回の入浴を基本としていますが、その時の気分や希望により、柔軟に対応をされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・就寝時間等、それぞれのペースに合わせています。夜おそくまで、フロアでテレビを見ている方もいらっしゃいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・藤村病院の薬剤師による服薬指導等もあり、投薬内容に変更があった場合は、申し送りノートに記入し、職員全員が把握できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・入居者様の生活歴や残存能力に応じた日常生活のお手伝いをしてもらったり、コーヒーなどの嗜好品の提供や、散歩・買い物の付き添い等、個別に対応しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・本人の希望があれば、ご家族様にも協力をいただき、できるだけ希望に沿うよう、その都度対応しています。	日頃から散歩に出かけています。希望により買い物や外食などに出かけられています。また、花見や、神社の祭りへの参加などの行事を企画。また、家族の協力を得るなど、外出支援をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・ご家族様と相談の上、お金を所持・管理されている入居者様もおられます。可能な人は、職員が買い物に付き添って、自分で支払いをされています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話や手紙など希望されれば、その都度対応しておます。携帯電話を所持し、ご家族と自由にやり取りされている方もおられます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・リビングルームの装飾は、職員等が季節ごとに貼り絵などで飾り付けをしています。金魚等も飼育して、楽しんでいただいています。また、調理場がフロアにあるため、料理の香りが広がって、家庭的な雰囲気を出しています。	建物の南側に大きな窓があり自然光が入り明るい雰囲気となっています。また、壁には活動写真や季節に合わせた飾り物を掲示したりし、温か味のある空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・フロアのリビングルームにソファやテレビを置いて、くつろぐ空間作りに努めています。また食事の際の座る席にも気配りをし、楽しく過ごせるよう工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入所時等に、自宅で使用していた家具類や調度品を、自由に自室に持ち込んでいただいています。	使い慣れたタンスやベッド、趣味や大切にしていた道具を持ち込まれ、居心地の良い空間となっています。また、終末期に入った時は、家族の宿泊も可能となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・建物内は転倒予防のため、バリアフリー等の構造、設備になっています。また、居室に表札を付けたり、トイレに目印を付けたりして、わかりやすいように工夫しています。		